

[トルコギキョウの弱ロゼット性 F<sub>1</sub> 品種育成と中間母本の特性向上]

## トルコギキョウ弱ロゼット性系統の雑種第 1 代の評価

～ 8 月上旬播種における抽苔特性と切花品質～

宮下千枝子・南 晴文\*・鶴沢玲子\*

(商品開発科\*島しょ農水センター大島)

---

【要 約】トルコギキョウの弱ロゼット性系統No.3 と早生系統との F<sub>1</sub> は、8 月上旬播種で 1～3 月に高率で開花し、市販品種と同等のボリュームを出せることから、大島での促成栽培に適合する。

---

### 【目 的】

大島のトルコギキョウ夏播き用品種の開発に向けて、これまでに弱ロゼット性系統No.3 の F<sub>1</sub> が超促成栽培(6～7 月播種秋採り)に利用できることを明らかにした。本試験では、育苗期が高温となる促成栽培(8 月播種冬採り)への F<sub>1</sub> の適合性を明らかにする。

### 【方 法】

F<sub>1</sub> 交配は種子親にNo.3 を、花粉親に早晩性の異なる市販品種の後代 5 系統を供試して、2004 年春に交配し、最低気温 25℃で登熟させて種子を採種した。2005 年、島しょ農水センター大島のパイプハウスにて、種子親No.3、F<sub>1</sub> 5 系統、花粉親 5 系統および対照としてロゼットしにくい F<sub>1</sub> 品種‘キャンディホワイト’他 2 品種、ロゼットしやすい F<sub>1</sub> 品種‘ピーターブルーライン 2’を供試し、8 月 10 日播種の作型で栽培評価を行った(表 1)。

### 【成果の概要】

- 1) 育苗中の平均気温は 26.2℃であり、一般にロゼット化を誘導しやすいとされる 25℃よりもやや高い条件となったが、定植後は平均 19.0℃と冷涼な温度条件であった(表 2)。
- 2) No.3 の節間伸長株率は 88%、開花株率は 64%であり、これまでに調査した 6～7 月播き栽培に比べて開花株率が低かった(図 1)。一方、市販品種の節間伸長株率は、‘ピーターブルーライン 2’を含めていずれも 95%以上であり、開花株率も晩生‘つくしの羽衣’を除く早生 3 品種では 8 割以上と高かった。この要因として、8 月播き栽培における定植後の涼温と短日条件の影響が考えられる。トルコギキョウの節間伸長と花芽分化には、涼温が促進的に働く一方で、短日条件が中生～晩生品種では抑制的に働く。8 月播き栽培では、6～7 月播きに比べて早晩性が抽苔に大きく影響すると考えられる。
- 3) F<sub>1</sub> 5 系統の節間伸長株率は、花粉親系統の節間伸長株率の高低に関わらず、いずれも 86%以上となり、安定して高かった(図 1)。F<sub>1</sub> の開花株率については、早生～中晩生系(PL-F, PL-D, No.5)を花粉親とする組合せでは 69～90%と高く、晩生系(TH-G, ML-I)の組合せでは 31～43%と低い値であった。F<sub>1</sub> の 50%開花期は 1 月下～2 月下旬となり、両親系統より早まる傾向であった(表 3)。
- 4) 開花株率の高かった F<sub>1</sub> 3 系統の切花長・切花重を調査した結果、いずれも市販品種‘キャンディホワイト’等と同等かそれ以上の値を示した(図 2)。
- 5) まとめ：弱ロゼット性系統No.3 は、8 月上旬播種では開花株率がやや低下する。No.3 と早生系統との F<sub>1</sub> は、1～3 月に高率で開花し、市販品種と同等のボリュームに生育することから、大島における促成栽培に適合する。

表1 耕種概要

播種	8月10日
定植	9月22日
育苗	288穴セルトレイ, 培養土「花用がちりくん」
区制	1区制, 42株/区
栽植密度	株間12cm×7条植え
施肥・灌水	基肥 N:P2O5:K2O=3kg/10a, 追肥は液肥を適宜施用, 点滴灌水
温度管理	定植後は暖房機により気温15℃以上に管理

表2 育苗および栽培中の気温

気温 <sup>a</sup>	育苗期 <sup>b</sup>	栽培期 <sup>c</sup>
最高	33.0	27.0
平均	26.2	19.0
最低	22.9	15.3

a) 最高=日最高値の平均。平均=日平均値の平均。最低=日最低値の平均。b) 播種後6週間。c) 定植後16週間。

表3 8月上旬播種におけるF<sub>1</sub>系統の開花期

品種・系統	早晩性 <sup>a</sup>	開花始め	50%開花期 <sup>b</sup>
♀ No.3	中	1月中	2月下
F <sub>1</sub> No.3×PL-F		1月中	2月上
♂ PL-F	早	1月下	2月下
F <sub>1</sub> No.3×PL-D		1月中	2月上
♂ PL-D	早	1月下	*
F <sub>1</sub> No.3×No.5		1月中	1月下
♂ No.5	中晩	1月下	3月下
F <sub>1</sub> No.3×ML-I		1月中	2月下
♂ ML-I	晩	1月下	2月下
F <sub>1</sub> No.3×TH-G		2月上	*
♂ TH-G	晩	2月下	*
キャンディホワイト	早	12月下	1月中
ピーターブルーライン2	早	1月上	1月下
メロウピンク	早	1月上	2月上
つくしの羽衣 <sup>d</sup>	晩	3月下	*

a) メーカーカタログ記載の早晩性を示す。ただし、No.3および花粉親系統については親品種の早晩性を示す。b) 全ての出蕾株のうち半数が開花した時期。\*は3月下旬の調査終了時点で開花株が半数に至らなかった。

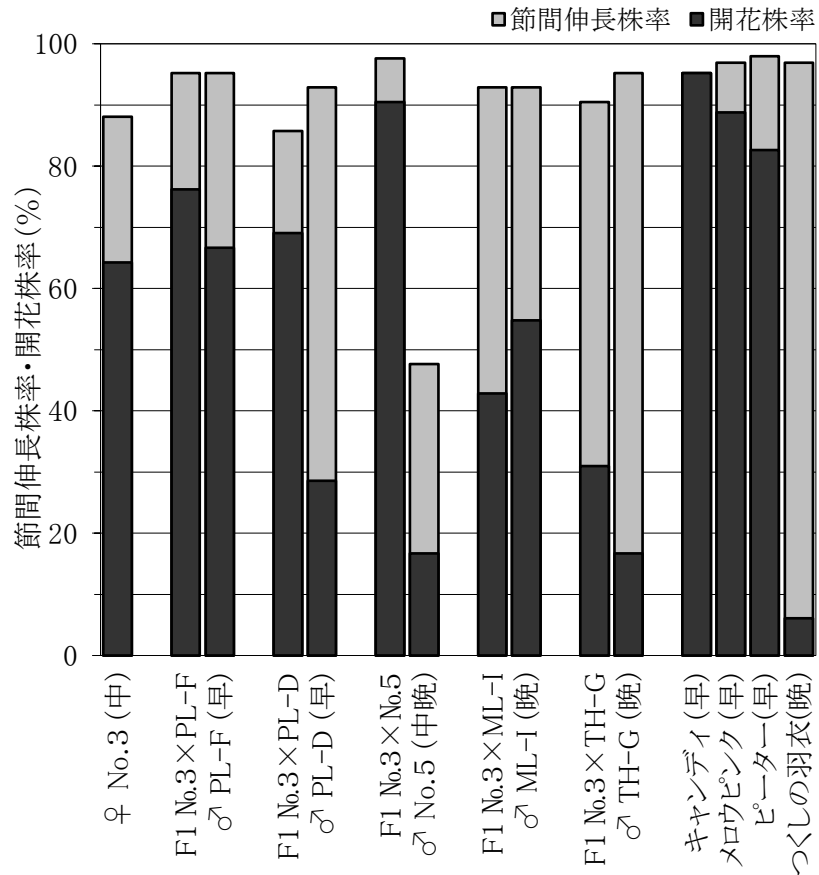


図1 8月上旬播種におけるF<sub>1</sub>系統の節間伸長株率および開花株率

キャンディ=キャンディホワイト, ピーター=ピーターブルーライン2。

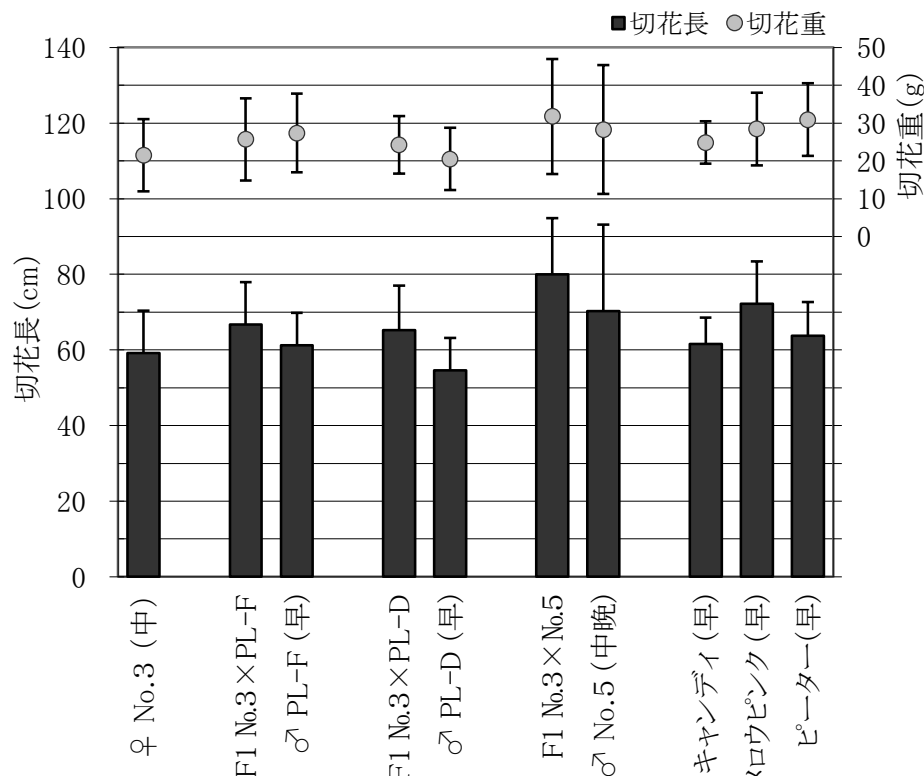


図2 8月上旬播種におけるF<sub>1</sub>系統の切花長および切花重

1品種・系統あたり7~40株を調査した。Iは標準偏差を示す。